

HOPPE

ほっぺ



Vol.1

第81期 中間事業報告書
平成10年4月1日～平成10年9月30日



 株式会社ニチレイ

* 本絵画の著作権は松永昭氏に帰属します。

お届けしたいのは、暮らしの笑顔。



CONTENTS

・ ごあいさつ	2	・ INTRODUCTION	9
・ 事業内容のご紹介	3	・ 第81期中間期営業のご報告	10
・ 低温物流事業	4	・ 中間貸借対照表	11
・ 食品事業	5	・ 中間損益計算書	12
・ 不動産事業	6	・ 株式の状況	12
・ The Report	7	・ 会社概要	13
・ KEY WORD	8		

ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

第81期中間事業報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当中間期のわが国経済は、国内消費の冷え込みから需給ギャップが拡大するなど、依然として景気の低迷が続く状況で推移いたしました。このような経済環境のなか、当社は、「暮らしを見つめ、人々に心の満足を提供する」ことを企業活動の原点とし、生活者重視のマネジメントを推進するため、本年4月に「中期構造改革計画」をスタートさせ、基幹事業の強化に努めてまいりました。

しかしながら、消費低迷の影響などにより、当中間期の売上高は2,093億60百万円（前年同期比4.5%の減収）

経常利益は19億85百万円（前年同期比27.2%の減益）となりました。また、株式会社ユキワの再建に伴う子会社支援損の引当てとして特別損失を計上した結果、誠に遺憾ながら41億4百万円の大幅な中間損失を計上することとなり、株主の皆さまには深くお詫び申し上げます。

今後につきましては、これまで以上に厳しい姿勢をもって構造改革に取り組むとともに、市場の変化に即応したきめ細かな事業展開により業績の向上に努める所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成10年12月

21世紀のさらなる発展へ向けて 中期構造改革計画

到来しつつある大競争時代にも持続的な成長を果たせる企業体質の構築を目指し、2000年度までの3カ年にわたる収益構造の改善計画を実施しています。

企業理念

暮らしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

基本姿勢

真に生活者の方々に生まれ、
評価をいただける商品やサービスを生産性高くお届けする。

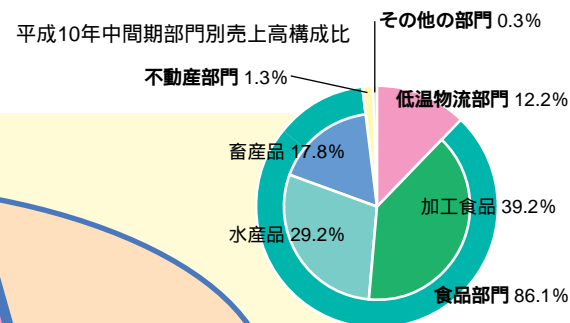
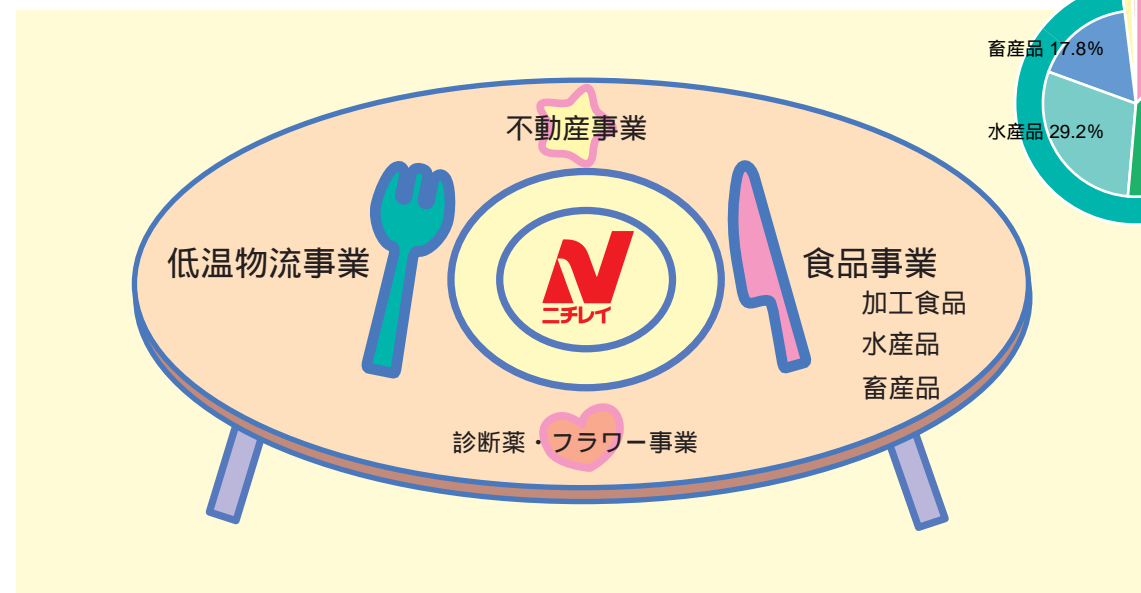
メインテーマ

- 21世紀における発展の基盤を確固たるものにする。
- ・ 基幹事業のさらなる強化 環境変化へのすばやい対応
経営資源の重点投入
- ・ 財務体質の強化 有利子負債の削減



代表取締役社長 手島 忠

暮らしに多彩な満足をお届けする
ニチレイの事業内容をご紹介します。



幅広い事業領域で 皆さまの生活に多角的にアプローチします。

全国的な低温物流ネットワークを活かし、高度化する物流ニーズに革新的な技術とシステムで対応している低温物流事業。冷凍食品やレトルト食品、水産・畜産品など、「安心して、楽しく、賢く」の基本コンセプトのもと、味で、素材で、サービスで本物・本格志向の商品を食卓にお届けしている食品事業。暮らしの根幹をなす食生活へ広範囲にアプローチするニチレイの歴史は、皆さまの日常生活を真摯に見つめ続ける日々でもあります。その姿勢がいつしか「低温物流事業と食品事業との事業ミックス」という、独自の企業スタイルを定着させました。このふたつの事業がときに領域を越えて連携し、シ

ナジー効果を発揮することから生まれる創造力や提案力こそが私たちの最大の強みだと信じています。

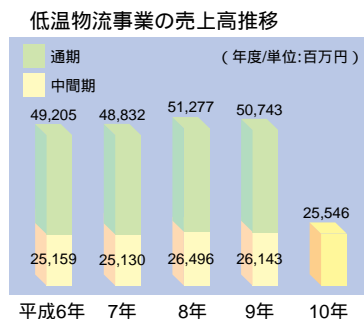
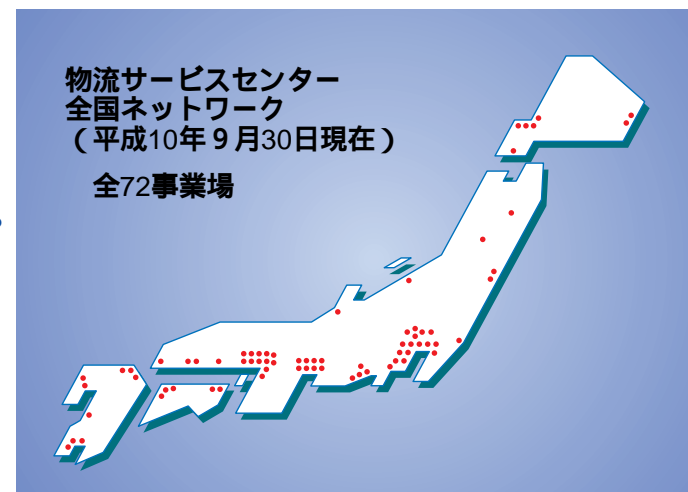
新しい事業領域も、事業ミックスによる暮らしへの多角的なアプローチのなかから派生しました。社有地の高度利用を目的とした不動産事業、皆さまの健康や暮らしのアメニティーに貢献する診断薬事業やフラワー事業、ニチレイはこれらの事業にも積極的に取り組んでいます。

私たちはたえず人々の暮らしを見つめ、いつもひとつ先の豊かさの提案を目指しています。

低温物流トータルソリューション 革新的なシステムによる 総合一括物流の実現を目指しています。

低温物流事業は、日本の営業冷蔵倉庫のパイオニアとして、全国に低温物流ネットワークを展開し、豊かで安全な食生活を支えてきました。従来の保管機能の高度化に加え、多品種少量化、多頻度配送などの時代のニーズに応え、流通の各段階に対して、より効率的な低温物流システムを提供しています。ニチレイはお客様の良きパートナーであり、信頼される真のサードパーティ・ロジスティクス業者として「物流の全体最適化」を目指し、ハイレベルな総合一括物流である 低温物流トータルソリューション を実現していきます。

低温物流事業



当中間期 [低温物流] 概況

当中間期の冷蔵倉庫業界は、主要港湾地区の庫腹増強や水産品、畜産品の輸入量の減少などにより、集荷競争は一段と激化いたしました。当社は、顧客ニーズに合った質の高い物流サービスの提案を行うとともに、全国的なネットワークを活かした営業活動を展開し、荷役作業の効率化、

事務の合理化などに取り組みましたが、景気の低迷や物流合理化に伴う流通在庫圧縮の影響を受け、稼働率は前年を下回りました。

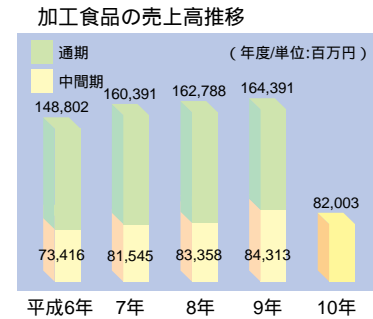
この結果、売上高は前年同期比2.3%減の255億46百万円となりました。

食品事業



冷凍食品やアセロラシリーズをはじめ、幅広い食のシーンに貢献しています。

昭和26年に「冷凍ミカン」などから始まったニチレイの冷凍食品事業は、調理技術の高度化と生活者ニーズにフィットした商品開発を進め、常に業界をリードしてきました。現在、冷凍食品は家庭用約120品目、外食向けなどの業務用約1,400品目。おなじみのお弁当から食卓商材まで、幅広いシーンに対応しています。有機・無農薬栽培冷凍野菜シリーズなどの農産加工品は、その国内販売量が他を寄せつけないシェアを誇り、ほかに畜産加工品や缶詰、レトルト食品など、商品ラインアップ



はさまざまな領域をカバーしています。また、ビタミンCが豊富なアセロラ関連食品をはじめ、食品に「おいしさプラスアルファ」の高機能を目指した商品開発や高齢化社会を見据えたヘルスケア食品分野へも積極的に取り組んでいます。

当中間期 [加工食品] 概況

冷凍食品市場は、新商品の市場導入が活発なこともあり、家庭用は順調に伸びましたが、業務用では景気低迷を反映して、外食、総菜関連の落ち込みがみられました。当社では、電子レンジでオープン調理のようにこんがり焼きあがる「新・レンジ生活/えびクリームグラタン」など、技術力を裏付けとした新商品が家庭用マーケットの活性化を促し、四季折々の素材を活かしたピラフ、おにぎり、グラタンなどの旬シリーズとともに売上げの拡大に寄与いたしました。また、生活者の健康・安全志向から有機冷凍野菜も大幅に伸長いたしました。一方、業務用は、総菜ルート向けにメニュー提案した「完熟トマトのメンチカツ」やポテトコロッケの旬シリーズが貢献したものの、

売上高は減少いたしました。レトルト食品・缶詰につきましては、家庭用の「ふかひれスープ(箱入り)」や業務用パスタソース類などが順調に売上げを伸ばしましたが、その他の業務用調理品やギフト缶詰の不振により、売上高は前年を下回りました。アセロラ関連食品では、天然ビタミンCが豊富なアセロラと健康食品としてのヨーグルトをミックスした「アセロラヨーグルト」や「アセロラのむヨーグルト」が高い評価をいただき、売上高に寄与いたしました。

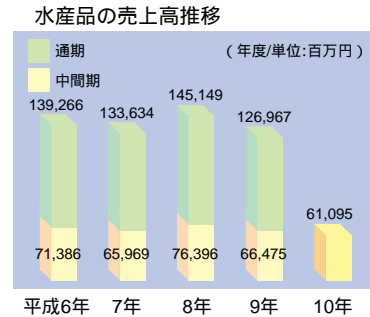
以上の結果、売上高は前年同期比2.7%減の820億3百万円となりました。

加工食品

水産品

世界中の海の幸を地球サイズのネットワークでお届けしています。

品質第一を基本に、世界中の産地から、活きの良さをそのままパック凍結し、食卓を彩るエビ、鮭、カニ、タコ、イカ、貝類などをご家庭や業務用マーケットにお届けしています。近年ニーズが高まっている加工品の開発にも力を注ぎ、素材から加工品まで、多彩な商品群を揃えてお客さまのご要望にお応えしています。



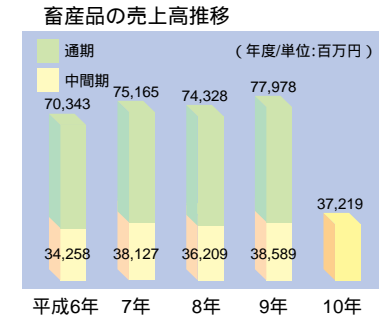
当中間期 [水産品] 概況

水産業界は、海外漁場の不漁などから一時的に品薄感が生じたものの、円安による買付価格の上昇に加え、信用収縮の影響を受けて流通・加工業者が在庫圧縮を進めたため、厳しい事業環境で推移いたしました。当社は、海外仕入先への技術指導により品質の向上に努める一方、量販店などへの販売強化に取り組みましたが、全般的な消費不振により取扱数量が伸びず、また、採算を重視して取扱品目を厳選した結果、売上高は前年同期比8.1%減の610億95百万円となりました。

畜産品

日本の食卓に新しい食肉文化をご提案しています。

品質へのこだわりを大切に、国内はもとより、世界各地の調達ネットワークを駆使して、「安全でおいしい」鶏肉、牛肉、そして豚肉を皆さまの食卓にお届けしています。徹底した品質管理体制のもと、加工技術の向上に努め、日本市場にマッチした商品開発を行っています。



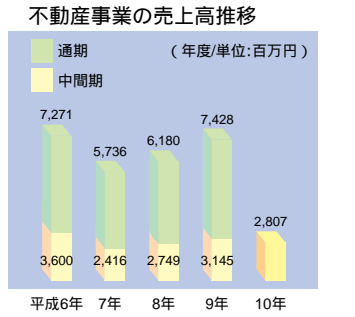
当中間期 [畜産品] 概況

畜産業界は、口蹄疫などの影響が薄れるとともに、豚肉の市況に落ち着きがみられるようになりましたが、景気低迷から高値商材が敬遠され、輸入牛肉離れが続くなど、消費量は相変わらず伸び悩みました。当社は、品質の差別化を図り、販売活動を積極的に展開いたしました。長引く消費低迷から、牛肉や鶏肉の取扱数量が落ち込み、売上高は前年同期比3.5%減の372億19百万円となりました。

不動産事業

快適空間を創り出し、暮らしの豊かさをご提供しています。

空間を通じて「人と人のふれあう」豊かさをご提案。「ニチレイ東銀座ビル」や「ニチレイ明石町ビル」のような都市型インテリジェントビルに加え、ニュータウン造成分譲など、多彩な空間価値を創造しています。



当中間期 [不動産] 概況

当中間期は、茨城県牛久市の戸建住宅の販売は1区画にとどまりましたが、新たに静岡県浜松市において宅地分譲(総数18区画)を開始し12区画の売上げを計上することができました。売上高は前年同期比10.7%減の28億7百万円となりました。

すでに本年4月からスタートしている「中期構造改革計画」。その施策は大別すると次の4つの柱から構成されます。それぞれの施策の要点をご紹介します。

リフレッシュ低温物流

顧客ニーズを重視した
保管型事業運営の実現

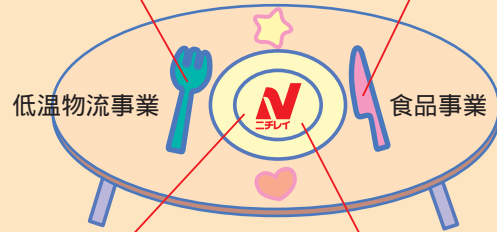
輸配送機能を活かした物流拠点の集約、共同配送の推進などを通じて、お客さまの物流改善に結びつく提案を積極的にいきます。

保管型事業の設備投資休止と

ローコスト運営の徹底

計画期間中は能力増強投資を抑制し、現有設備の稼働率向上を図ります。また、情報化・FA化の推進によりローコストでの事業運営を実現します。

流通型物流センター事業の積極展開
大手量販店や有力卸売業者等の物流センター運営受託や物流システム提案を積極的に進めていきます。



パワーアップ食品

顧客密着営業体制の実現

お客さまのニーズに的確にお応えすべく、お客さまの業態ごとに組織した営業体制に再編し、積極的な商品開発・提案に結びつけます。

営業要員の質・量両面の増強

販売地域を隈なくカバーする営業体制を実現するため、第一線を強化。お客さまを直接担当する営業要員を50%増員します。

カテゴリーマネジメントの導入

主力商品群に製造から販売までの一貫マネジメントを導入し、収益管理の徹底と商品力の強化を図ります。

生産体制の再編

国内、海外の生産拠点の最適配置によりコスト低減を実現します。

有力食品問屋との取り組み強化

有力食品問屋との情報ネットワークを強化し、取引効率と物流効率を高めます。

水産品・畜産品事業の安定化

採算性と高品質食材の供給を重視し、安定収益体制を確立します。

スリム&タフ管理

要員の多役化推進と少数精鋭化
チーム制の導入と権限委譲を進め、スピーディーな意思決定を行える柔軟な組織運営に転換していきます。

部の統廃合

本社・支社の管理部門および事業部門内の管理機構を含めたスリム化を図ります。

財務体質の強化

設備投資の厳選や短期運転資金の圧縮、資産の流動化を進め、有利子負債の計画的削減を図ります。
目標：2001年3月末 1,100億円以下
(1998年3月末現在 1,347億円)

おすすめおいしさ委員会

「おすすめおいしさ委員会」は、食しょくに関心の高い主婦約100人を中心に構成された2WAYコミュニケーションの組織。パソコン通信によるメールアンケートや意見交換を通じて、生活者の皆さまと食しょくに関するさまざまな思いや悩みを本音で話し合い、共有することを目的に1997年7月から始めました。食事の支度や子供の食事の苦勞など日常の身近なテーマから、環境問題・遺伝子組換えなどの社会的テーマまで幅広く取り上げています。そして、このような活動を活かし、少しでも皆さまのお役に立てる商品やサービスをご提供できればと考えています。この委員会の活動内容は皆さまにもご利用いただけるようインターネットのホームページでもご紹介しております。



ホームページアドレス
URL <http://susume.nichirei.co.jp/>

KEY WORD

ニチレイならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介します。

6分で焼き目

ニチレイの新技术が、電子レンジでできるおいしい「焼き目」を生みだしました。グラタン類で見た目のおいしさとして欠かせない、こんがりとした「焼き目」は、これまで電子レンジ調理では不可能とされ、オープン調理で15～16分かかるのが一般的でした。今春新発売の冷凍食品「新・レンジ生活/えびクリームグラタン」は、電子レンジでオープン調理のようにこんがり焼きあげたグラタンを味わえる画期的製品。「焼き目」の生成メカニズムを分析したニチレイ独自の研究開発により、おいしい「焼き目」のあるグラタンができあがるまでに



わずか6分*というスピード調理が可能となりました。
*ご使用になる電子レンジの機種により調理時間は若干異なります。

冷凍食品

【新・レンジ生活 衣がサクサク 牛肉コロッケ】



北海道・土幌産の男爵いもに牛肉がたっぷり入ったコロッケです。電子レンジで調理しても揚げたてのサクサク感が味わえます。この秋、そのまま電子レンジに入れられる小分けトレーを採用し、さらに便利になりました。

【今夜は、酢豚をつくろう。】



素揚げした豚肉と人参、タケノコが入ったソースを加熱して、ご家庭にあるピーマン、玉ねぎを加えてフライパンで炒めれば、本格酢豚の出来上がりです。この秋、電子レンジでもボイルでも加熱できるよう改良し、さらに便利になりました。

【有機・無農薬栽培 ミックスベジタブル】



当社は国内で最初に米国有機認証機関オレゴン・ティルスの認証を受けました。この他にポテトやコーン、ブロッコリーなどもご好評をいただいております。

INTRODUCTION

ジャンル別にとくにご好評の製品をご紹介します。

常温食品

【牛乳で仕上げるポタージュスープ とうもろこし】



冷凍野菜で実績のある有機・無農薬栽培とうもろこしを使用した、濃縮タイプのレトルトスープを今秋発売いたしました。「とうもろこし」同様「かぼちゃ」のポタージュもご好評をいただいております。

【ふかひれスープ】



ふかひれスープを発売したのが、昭和40年(当時は缶入り)。調理タイプのふかひれスープ市場では63%というトップシェアをいただいております。卵を入れて仕上げるだけで、本格中華スープが手軽にできるレトルトタイプのスープです。

アセロラ食品

【アセロラヨーグルト90g x 2】



天然のビタミンCをレモンの約38倍も含んでいるアセロラ。この果実を原料としたアセロラドリンクも発売以来12年目を迎えました。今年の8月にはヨーグレートとのダブルブランドでヨーグルトを新発売。

第81期中間期営業のご報告

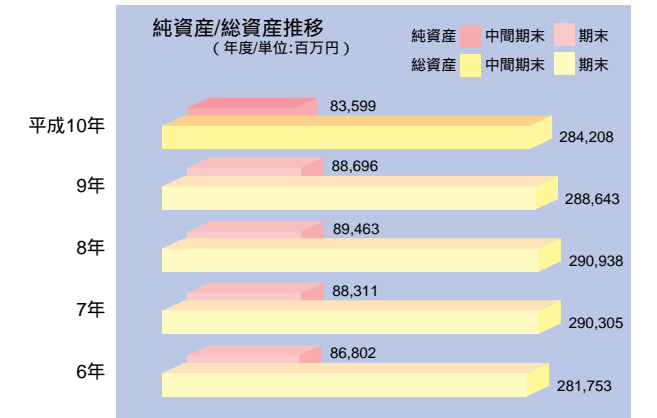
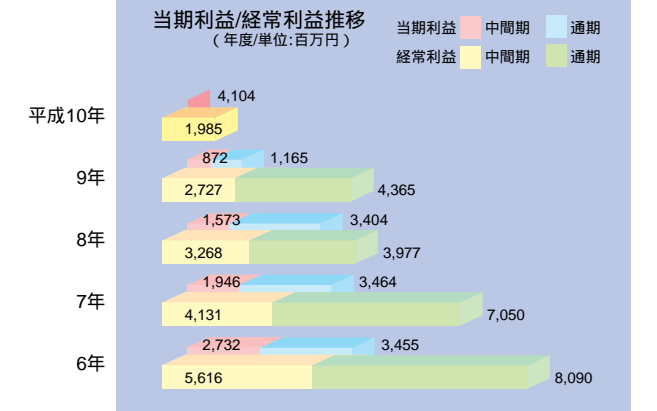
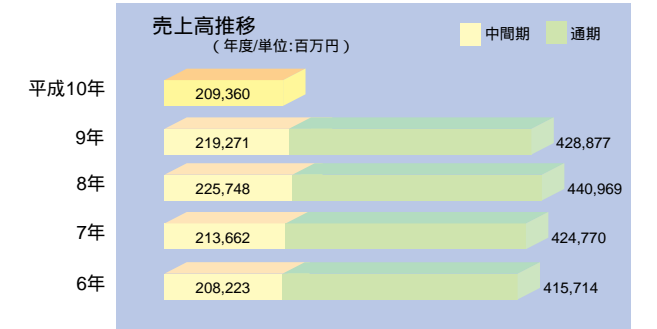
当中間期のわが国経済は、国内消費の冷え込みから生産調整、設備投資抑制の動きが顕著となり、金融安定化の遅れなどによる株価の低迷も加わって、企業収益が一層落ち込むなど、景気は底ばいの様相を呈してまいりました。

食品関連業界におきましては、雇用不安を背景に消費者の購買意欲が減退していることから、スーパー、コンビニエンス・ストアの売上高が既存店ベースで前年実績を下回り、加えて円安によるコスト高や天候不順の影響もあって、引き続き厳しい事業環境で推移いたしました。

このような環境下でありまして、当社は、4月からスタートした「中期構造改革計画」のもと、「生活者重視の視点」から新商品・サービスの開発や営業組織の改革などに取り組み、基幹事業のさらなる強化に努めました。

しかしながら、当中間期の売上高は、2,093億60百万円(前年同期比4.5%の減収)となり、低温物流事業の採算が悪化したことなどから、経常利益は19億85百万円(前年同期比27.2%の減益)となりました。また、株式会社ユキワの再建に伴う子会社支援損の引当てとして特別損失47億円を計上したことにより、誠に遺憾ながら41億4百万円の大規模な中間損失となりました。

なお、中間配当金につきましては、安定的な配当の継続を重視するという方針に則り、1株につき3円と決定させていただきました。



中間貸借対照表

(平成10年9月30日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
< 資産の部 >		< 負債の部 >	
流動資産	126,176	流動負債	96,433
現金・預金	844	支払手形	3,614
受取手形	2,701	買掛金	28,743
売掛金	63,293	短期借入金	29,154
有価証券	21,968	コマーシャルペーパー	11,500
商品・製品	30,338	長期借入金(1年以内返済)	25
原材料・貯蔵品	1,176	未払金	1,025
前渡金	30	未払法人税等	422
前払費用	714	未払事業税等	190
短期貸付金	2,182	未払費用	12,671
未収入金	2,124	前受金	215
その他の流動資産	1,233	預り金	2,517
貸倒引当金	433	前受収益	1
固定資産	158,032	子会社支援損失引当金	4,700
有形固定資産	121,815	その他の流動負債	1,651
建物	64,138	固定負債	104,176
構築物	2,644	社債	65,000
機械装置	17,655	転換社債	6,307
車両運搬具	114	長期借入金	13,589
工具器具備品	3,373	退職給与引当金	155
土地	30,971	役員退職慰労引当金	703
建設仮勘定	2,917	預り保証金	18,421
無形固定資産	1,292	負債合計	200,609
借地権	1,156	< 資本の部 >	
商標権	3	資本金	30,307
その他の無形固定資産	132	資本金	30,307
投資等	34,924	法定準備金	28,841
投資有価証券	9,629	資本準備金	23,704
子会社株式	10,103	利益準備金	5,137
子会社出資金	2,440	剰余金	24,449
長期貸付金	1,599	特別償却準備金	878
その他の長期債権	457	固定資産圧縮積立金	7,750
長期前払費用	1,346	固定資産圧縮特別勘定積立金	691
敷金・保証金	6,980	別途積立金	17,210
その他の投資	2,721	中間未処理損失	2,081
貸倒引当金	355	(うち中間損失)	4,104
資産合計	284,208	資本合計	83,599
		負債及び資本合計	284,208

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書

(平成10年4月1日から
平成10年9月30日まで)

(単位:百万円)

科目	金額
< 経常損益の部 >	
営業損益の部	
営業収益	
売上高	209,360
営業費用	
売上原価	178,349
販売費及び一般管理費	28,382
営業利益	2,627
営業外損益の部	
営業外収益	1,617
受取利息及び配当金	679
有価証券売却益	409
雑収入	528
営業外費用	2,259
支払利息及び割引料	1,758
適格年金過去勤務費用	270
雑損失	230
経常利益	1,985
< 特別損益の部 >	
特別利益	48
固定資産売却益	5
その他の特別利益	42
特別損失	5,601
固定資産廃棄売却損	249
子会社支援損失引当金繰入額	4,700
子会社株式評価損	636
その他の特別損失	15
税引前中間損失	3,567
法人税及び住民税	536
中間損失	4,104
前期繰越利益	2,023
中間未処理損失	2,081

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

(平成10年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数…………… 720,000,000株
発行済株式の総数…………… 310,851,065株
1単位の株式数…………… 1,000株
株主数…………… 32,144名
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
住友信託銀行株式会社	26,003	8.4
日本生命保険相互会社	18,539	6.0
株式会社富士銀行	13,655	4.4
安田信託銀行株式会社	10,393	3.3
日産火災海上保険株式会社	9,968	3.2
東洋信託銀行株式会社	7,839	2.5
三菱信託銀行株式会社	5,670	1.8
株式会社日本興業銀行	5,514	1.8
株式会社第一勧業銀行	5,403	1.7
第一生命保険相互会社	5,351	1.7

(注) 信託銀行各社の持株数には、証券投資信託など各社が信託を受けている株式が含まれております。

[注記事項]

- 中間貸借対照表の注記
(注) 1. 子会社に対する債権・債務
- | | |
|--------|----------|
| 短期金銭債権 | 8,925百万円 |
| 長期金銭債権 | 1,586百万円 |
| 短期金銭債務 | 8,978百万円 |
| 長期金銭債務 | 1,124百万円 |
2. 有価証券に含まれる自己株式 159千円
3. 有形固定資産の減価償却累計額 115,280百万円
4. 貸借対照表に計上した固定資産のほか、一部の物流センター、電子計算機およびその周辺機器ならびに冷凍食品の自動販売機等については、リース契約により使用しております。
5. 主な外貨建資産・負債
- | | |
|--------|------------------------------|
| 投資有価証券 | 351百万円 (54,700千タイ・パーツほか) |
| 子会社株式 | 5,173百万円 (51,000千ドルほか) |
| 子会社出資金 | 1,975百万円 (25,100千ダッチ・ギルダーほか) |
6. 担保に供している資産
有価証券 36百万円
7. 保証債務 31,616百万円
8. 子会社支援損失引当金および役員退職慰労引当金は、商法第287条ノ2の引当金であります。
9. 1株当たり中間損失 13円20銭 (中間期末発行済株式数による)

- 中間損益計算書の注記
(注) 1. 子会社との取引高
- | | |
|------------|-----------|
| 売上高 | 26,151百万円 |
| 仕入高 | 36,247百万円 |
| 営業取引以外の取引高 | 5,071百万円 |

会社概要

(平成10年9月30日現在)

社名 株式会社ニチレイ
所在地 東京都中央区築地六丁目19番20号
 ニチレイ東銀座ビル

設立 昭和17年12月

役員

取締役会長	金田 幸三
代表取締役社長	手島 久彌
専務取締役	武居 久彌
専務取締役	中野 勲治
専務取締役	北野 文男
常務取締役	高原 博二
常務取締役	吉川 好三
常務取締役	福田 厚司
常務取締役	山口 修司郎
常務取締役	原 直弘
取締役	村上 英彦
取締役	横田 浩二
取締役	後藤 一彦
取締役	森井 孝一
取締役	島津 忠之
取締役	大戸 武元
取締役	榆 敏秀
取締役	福原 淑文
取締役	前嶋 弘一
取締役	千葉 充幸
取締役	芳賀 仁
常任監査役(常勤)	渡部 徹雄
監査役(常勤)	浜田 鴻之介
監査役	河上 和雄
監査役	内野 治泰

従業員数 2,623名

会計監査人 太田昭和監査法人
 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
 日比谷国際ビル

**ホームページ
 アドレス** <http://www.nichirei.co.jp/>

支社

北海道支社 札幌市中央区北10条西20-2-20
 〒060-0010
 ☎(011)631-0178

東北低温物流支社 仙台市青葉区中央3-2-1
 〒980-8486
 ☎(022)711-2101

東北営業支社 仙台市青葉区中央3-2-1
 〒980-8486
 ☎(022)711-2101

関東低温物流支社 東京都中央区湊3-5-7
 〒104-0043
 ☎(03)3297-4501

関東営業支社 東京都中央区湊3-5-7
 〒104-0043
 ☎(03)3297-4501

中部低温物流支社 名古屋市熱田区川並町2-16
 〒456-0072
 ☎(052)683-2551

中部営業支社 名古屋市熱田区川並町2-16
 〒456-0072
 ☎(052)683-2551

関西低温物流支社 大阪市中央区久太郎町1-4-8
 〒541-0056
 ☎(06)263-2555

関西営業支社 大阪市中央区久太郎町1-4-8
 〒541-0056
 ☎(06)263-2555

九州低温物流支社 福岡市早良区百道浜1-7-5
 〒814-0001
 ☎(092)841-6700

九州営業支社 福岡市早良区百道浜1-7-5
 〒814-0001
 ☎(092)841-6700



人間LSC



高槻食品工場



技術開発センター



本社

株主の皆さまへアンケートのお願い
 当社は今後も事業報告書を株主の皆さまとのコミュニケーションの場として充実させていきたいと考えています。
 お手数ですが、次のアンケートにご意見、ご感想をお寄せください。
 (切手を貼らずにご投函ください)

株主の皆さまへアンケートのお願い

当社をお知りになったきっかけは何でしょうか。
 1.製品 2.TVコマーシャル 3.新聞・雑誌広告
 4.証券会社 5.新聞・雑誌記事
 6.その他()

当社の株を買い付けられた理由は何でしょうか。
 1.市場競争力 2.安定性 3.将来性 4.開発力
 5.財務内容 6.企業イメージ 7.証券会社の推奨
 8.その他()

当社に対して今後どのようなことを望まれますか。
 1.分かりやすい情報提供 2.安定的な経営
 3.株主への利益還元
 4.その他()

HOPPE についておたずねします。
 掲載内容について
 1.参考になった 2.読みにくかった 3.説明が不十分
 4.情報開示量が少ない
 5.その他()

今後 HOPPE で取り上げて欲しいテーマがありましたらお聞かせください。

キリトリ線

株式会社ニチレイ

東京都中央区築地 6-19-20

〒104-8402

☎(03)3248-2101 (代表)

(03)3248-2113 (財務部株式担当直通)

キリトリ線

郵便はがき

1 0 4 - 8 7 9 0

1 0 0

料金受取人払

京橋局承認

2974

差出有効期間
平成11年11月
30日まで

東京都中央区築地6-19-20
ニチレイ東銀座ビル

株式会社ニチレイ
財務部 行



ご住所 〒 都道府県 市区郡

ご職業

フリガナ

お名前 満 才

TEL. ()

ご協力ありがとうございました。

株主メモ

決算期 3月31日

定時株主総会 6月

定時株主総会議決
権行使株主確定日 3月31日

利益配当金支払
株主確定日 3月31日

中間配当金支払
株主確定日 9月30日

株式名義書換
停止期間

・4月1日から4月30日まで

・10月1日から10月31日まで

[上記のほか、必要があるときは、あ
らかじめ公告したうえ、臨時に一定
期間名義書換を停止する。]

上場証券取引所 東京・大阪・名古屋・京都・広島
福岡・新潟・札幌

公告掲載新聞 日本経済新聞

名義書換代理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
安田信託銀行株式会社

同 事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
安田信託銀行株式会社 本店証券代行部

(郵便物送付先)
電話お問合せ先 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号

安田信託銀行 東京事務センター内

安田信託銀行株式会社 証券代行部分室

☎(03)3642-4004 (大代表)

同 取次所 安田信託銀行株式会社 全国各支店

キリトリ線